

国際ロータリー第2840地区 2005-2006年度

ガバナー月信



GOVERNOR'S MONTHLY LETTER
to Rotary club presidents and secretaries

超我の奉仕

終刊号



曾我ガバナー事務所

〒371-0026 群馬県前橋市大手町3-3-1 群馬県中小企業会館3F

TEL.027-234-2840 FAX.027-234-0555

URL <http://www.rid2840.jp> E-mail soga@rid2840.jp

Vol.13



【目次】

地区三役メッセージ

『1年間を顧みて』 ガバナー 曾我隆一 ……2・3

『曾我ガバナー年度を振り返って』

地区幹事 坂内光政 ……4

『地区会計長報告』 地区会計長 横田秀治…5・6

会議・委員会報告

第4回ガバナー諮問委員会 ……7

新旧地区役員連絡会議 ……8

青少年交換委員会 『青少年1年交換学生終了式』 ……9

ロータリー財団委員会『国際親善奨学生オリエンテーション』…10

研究グループ交換委員会『GSE日本チーム ドイツへ』…11

米山奨学委員会 『米山奨学生 学友会総会』…12

地区活動記録

地区主要行事一覧 ……13・14

曾我ガバナー クラブ例会訪問記録 ……15

RI表彰・ガバナー賞 推薦クラブ一覧…16

会員数の推移…17

ガバナースタッフ 年間活動報告・所感 ……18・25

曾我年度資料 ……26・27

〈寄稿〉サービスの哲学としてのロータリー理念

前橋RC 本田博己 ……28・34

ガバナー・メッセージ



国際ロータリー第 2840 地区
2005 - 06 年度
ガバナー 曾我 隆一

「一年間を顧みて」

会長・幹事そして地区役員の皆様へ

梅雨空が続く中、紫陽花が一際輝いて咲き誇っています。皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

ガバナーとしてこの一年間恙なく任期を全うできましたのも、偏に皆様方のロータリーの友情による格別なご理解とご支援のお陰と心から感謝とお礼を申し上げます。

ここにガバナー月信終刊号を発刊するにあたり、この一年間を振り返り、私なりの所感を述べてみたいと存じます。

今、ロータリーは100周年の節目を越え、新たなロータリー第二世紀に入りました。私達はロータリーの原点・基本に立ち戻ると同時にロータリーの抱えている課題を捉え、勇気をもって改革に取り組むべきと、この一年間一貫して考えてまいりました。

そして、ガバナーとしての最優先課題を Membership Development (会員増強 = 会員組織強化) に絞り込み、クラブ組織の強化 (既存クラブの強化助成) のための支援ツールを提供し、DLP (とその延長計画である CLP) を最大限活用しようと訴えてまいりました。

大きな見直しの一つは、ガバナー補佐 (Assistant governor) の機能を強化し、地区全体を8グループ、8名のガバナー補佐とさせていただきました。その主要責務は担当クラブの管理運営に関して、ガバナーを支援すると同時に他のガバナー補佐、地区委員会委員長、ガバナー・エレクトと緊密な連携をとりつつ、個々のクラブ活性化を支援するということでした。

とりわけ、クラブ指導者とのコミュニケーションを深めて、CLPの最大目標であるクラブの再活性化・魅力向上に役立つ地区支援体制としました。この方向性は次年度においても踏襲して頂けていますので、更なる発展が期待できると思います。

地区組織においても、21世紀委員会、IT委員会、広報委員会を強化して来ました。更に地区主要行事、PETS、地区協地区大会、ガバナー公式訪問について大幅な改革を実施しました。多少のご迷惑をお掛けした点をご寛容に願いたいのですが、地区予算の節減と皆様方の肉体的拘束はかなり、軽減できたのではないかと考えております。

今年のRIテーマ“SERVICE above SELF”のもと、ロータリーとは何か、基本に立ち返るべく、昨年8月に職業奉仕・社会奉仕合同セミナーを実施いたしました。クラブ指導者の皆様のロータリー理解が深まり、クラブ活性化への第一歩になったのではないかと信じます。

また、11月には、国際ロータリー ステンハマー会長を、群馬県に初めてお迎えして合同IMを開催し、会長とクラブ・リーダーの皆様と親しく交流する機会を持てたことも忘れられない行事でした。

数年ぶりの研究グループ交換(GSE)は、ドイツ(RID1890)との受入れ・派遣を同年度で実施することとなりましたが、委員会・受入れクラブ・ロータリアンの絶大な協力で、大変有意義なプログラムとなりました。

いずれにしても、伝統は変化への積み重ねであります。津久井年度においても、更に変化への対応を積極的に挑戦され、結果として、各クラブが元気になり、会員が増加することを希っております。

この一年間、本当に有り難うございました。



曾我ガバナー年度を振り返って



国際ロータリー第 2840 地区
2005 - 06 年度
地区幹事 坂内 光政 (前橋 RC)

『ちる音は、花も及ばぬ木の葉かな』荒木田守武のこの句は、咲き誇る花の喩えようもないものの、美しき花の記憶をとどめた心の内に、聞こえる木の葉の散る音は、音が記す空間とのかかわりあいの中に、えもいわれぬ感性を感じるものです。作者は宗鑑とともに俳句の先達と言われた伊勢内宮の禰宜であった方で、私が日頃から口ずさむ心から傾倒する句です。

丁度 14 年前、故細渕久雄氏がガバナーノミニーの時にノミニー事務所を 92 年 9 月に開設するに際して、曾我隆一ガバナーとともに地区副幹事になったのが、ガバナー事務所運営に携わった初めと思います。93 年 7 月スタート時の旧 2560 地区会員数は 5300 名、新潟 49 クラブ、群馬 36 クラブで日本一のマンモス地区でありました。4 人の副幹事が業務を分担し、両県内をめぐりしく動いたことを昨日のこのように思い出します。12 年経った 2005 年、当地区 7 月のスタートの会員数は 2050 名、クラブ数 47 で往時と比べると隔世の感がありました。

今年度のロータリー年度も終わりを迎え、花が咲き競ったかのような当年度の各種行事、1 日の地区大会、ステンハマー R I 会長来県記念合同 I M、地区協議会、P E T S、各種セミナー等が実施されました。そして、地区組織の抜本的な見直しと編成は、どれを見ても曾我ガバナーの提唱した、クラブとその会員個人とを、生き生きと活性化し、ロータリーの再活性化は、過去の栄光に埋没するのではなく、時代とともに又更に、時代を先取りして、ロータリー活動そのものの変化を辞さない心構えと、その行動こそが明日のロータリー活動を約束するものであることを、明らかにしました。ロータリー 100 年の歴史を問うと、根底に流れる奉仕の哲学と、それに対応するかのごとき柔軟な運営こそが、その持続性の本質であることが読み取れると思います。

生まれ、今私たちは、また何処へ行こうとするかを更に問うことが望まれるでしょう。おおらかに、伸びやかに、力強く、繊細さと優しさを持って。

今年度の地区運営をなんとか達成できたことは、地区内ロータリアン一人一人のご協力と、クラブ会長・幹事を初めとする全クラブのご協力のおかげであります。とりわけ、地区運営の要となった、パストガバナー、ガバナー補佐、各委員長を始めとする地区役員の皆さんに深く感謝を申し上げます。そして、始まりから終わりまで、終始、和気藹藹とガバナー事務所が運営できたこと、これを支えてくれた、曾我ガバナー、横田会計長、本田事務局長、矢端、板垣、今井、平方、福島の各副幹事、事務局の小林さん、南さん感謝いっぱいです。本当にありがとう。

私達は今回の経験の上に決してあぐらをかくことなく、誰にも威張らず、誰にも卑下せず、頭が固くならないようにありたいと願っています。 感謝



地区会計長報告

国際ロータリー第 2840 地区

2005 - 06 年度

会計長 横田 秀治 (前橋 RC)

1. 会計長を引受けて

地区の改革が必要であると多くの会員から言われ、丁度前橋クラブの会長でもあった私が曾我隆一君をガバナーに推薦することになり、当時の仙田幹事のアドバイスにより、ようやく曾我ガバナーが実現することになりました。

曾我ガバナーから会計長就任を要請されお引き受けしましたが、地区運営の大幅な見直しを敢行した年度となり、仕事は大変でした。特に私は公認会計士群馬県会会長と重なったため、余計大変な思いをしました。

2. 地区改革の必要性について

新潟と地区分割を行い収入が半分になったのに、事業は以前と同じ様にするのでは支出額が減らず、さらに毎年会員数が 100 名前後減少していたのでは収入が減少して赤字になってしまいます。そのため歴代会計長は苦労していますが、お金はないわけではなく、一般会計・特別会計の繰越金は十分ありました。しかしその繰越金に手をつけると年度ではいくら赤字を出したと語り草になりますので赤字は出せないと思いました。また多額な繰越金を残しても使えないお金ではもったいないので繰越金を増やす必要もないと考えました。

3. 地区改革の実施方法について

(1) 会員負担金の減額

一般会計では規定審議会補助金負担をもらわないことにして 100 円減らしました。特別会計では W C S の 300 円を 0 円にし、国際交流も 300 円を 0 円にし、総額で一会員当り 700 円減額しました。

青少年も減らしてよいのではないかと意見もありましたが次年度で検討してもらうことになりました。

(2) 地区主体の新しい事業は控えて、クラブ主体を尊重すること。

ガバナーは自分の理念を実現すべく、新しい事業を計画しがちですが、毎年事業が増えるのでは収入が減少しているのですから収支が合わなくなります。そこで地区主体の事業は出来るだけ整理することにしました。

社会奉仕と職業奉仕の地区委員を置かないのは何事だとずい分苦情を言われましたが、実をとって職業奉仕・社会奉仕合同部門セミナーを 8 月に開催しました。

(3) 地区大会や P E T S を一日だけで行なうことにしたこと。

R I の『手続要覧』に違反するのではないかという意見もありましたが、原文では “ recommend ” であり “ should ” ではないので、その他の要件を満たせば何の問題もないと判断しました。しかも「全員登録」をやめ希望者だけにし、さらに登録料を 1 万円から 3,000 円にし、懇親会も希望者だけで

6,000 円にしました。R I 会長代理歓迎晩餐会は懇親会と兼ねましたので、かつての全員登録で登録料が 15,000 円の時と比べると約 4 分の 1 の負担になります。

全員登録でも実出席は 600 名程度なのだけから希望者だけなら 500 名ぐらいと予想していましたが 894 名の出席があり、第一分区の会員は会場に入れずロビーのテレビで見ることになり大変ご迷惑をかけました。

少ない予算にもかかわらず、地区大会を成功させてくれた実行委員会には感謝しています。

(4) 識字率プロジェクト資金の収支について

3 年前重田パストガバナーの発案で発足したプロジェクトでしたが、地区内 33 クラブから 306 万円の寄付金をいただき支出は 122 万円でインド、フィリピン、トルコの要請のあったクラブのうち 8 ロータリークラブへ教育用機材等の購入資金を送金しました。

重田パストガバナーが R I 理事に選出されゾーン研究会を東京で開催することになり重田 R I 理事と高崎北クラブがホストすることになりました。

地区は緊縮予算なので予算外支出など不可能ですが、高崎北クラブだけに負担させるのはいかにも気の毒であり、群馬県から初めて R I 理事が選ばれたことは地区にとっても名誉なことと考え、重田パストガバナーからの要請もありましたので識字率プロジェクトの残金のうち 100 万円をゾーン研究会に支出することを諮問委員会に図り承認されました。

さらに地区行事であった植樹事業を沼田中央クラブに引き継いでもらいましたが、今後の資金として識字率の残金 84 万円と一般会計から 16 万円を支出して合計 100 万円を沼田中央クラブにさし上げることも同時に承認してもらいました。有意義に使用出来たと思っています。

(5) ステンハマー R I 会長の来県について

支出削減のために地区大会で R I 会長代理を呼ばずにすませないかと考えていたのに、R I 会長本人が群馬県に来ることになり、びっくりし、そして予算がないので困ってしまいました。しかし、出席者から登録料をいただくことにし合同 I M を開催し、無事成功のうちに終了できたことを感謝しています。

(6) ガバナー事務所運営費について

ガバナーの任期はたったの 1 年間ですが、ノミニーの選出された時から準備が始まり、支出が発生します。さらにエレクトになれば事務所を開設して事務局員を採用し種々の準備と、PETS や地区協議会などの設営を行ないます。従って支出期間はノミニー選出後の 2004 年 1 月頃から出納閉鎖の 2006 年 8 月まで 2 年 8 ヶ月間になります。従ってガバナー事務所費の予算はもっと増額しないと運営が大変であると実感しました。苦労もしましたが優秀なスタッフのおかげで無事すごせたことを感謝しています。

第4回ガバナー諮問委員会報告

地区幹事 坂内 光政

6月24日(土)前橋東急インにおいて第4回地区諮問委員会が開催されました。曾我ガバナーより今月11日から14日までスエーデンのマルメ、デンマークのコペンハーゲンで開催されたR I国際大会に参加した詳細が報告され、さらに15日、今月ドイツへ派遣されている当地区G S Eチームメンバーと合流しドイツ、ハーケRCの例会に出席し大変な歓迎を受け、G S Eメンバーも元気に活躍していることが報告されました。その後、重田R I理事からR I国際大会に参加した当地区会員が世界大会初日の日本人朝食会開催に当って受けを援助協力したことに対し、謝辞が述べられました。その後、小生から、下記1、3、4の報告をなし、横田会計長から下記2の地区資金会計報告がされました。

出席者並びに議題は次のとおりでした。

出席者 ガバナー・曾我隆一、ガバナーエレクト・津久井義孝、**地区諮問委員**・R I理事重田政信、吉野一郎、関口隆、清章司、矢野亨、森田均、山崎學、**地区幹事**・坂内光政、長谷川嘉宣、佐藤修、**地区会計長**・横田秀治
地区副幹事・事務局長・本田博己

議題

1. 2005 - 06年度 地区運営・事業報告
2. 2005 - 06年度 地区資金会計報告
3. 地区会員数報告(過去5年度会員数月別推移報告)
4. ガバナー補佐・地区委員長年間活動報告

諮問事項

1. 2008 09地区ガバナー候補者指名の件
関口隆地区指名委員会委員長から現在次の候補を選定中である旨の報告がされました。
2. 津久井年度地区運営方針について
津久井ガバナーエレクト及び長谷川地区幹事から次年度地区運営方針について詳細な提案がなされ了承されました。

国際ロータリー第2840地区
2005 06年度、2006 07年度
新旧地区役員連絡会議 報告

地区幹事 坂内光政

6月24日(土)前橋東急インにおける第4回地区諮問委員会終了後、曾我年度と津久井年度の新旧ガバナー補佐・地区委員長とガバナースタッフも加わり、新旧地区役員連絡会議が開催されました。曾我ガバナー・坂内地区幹事・横田会計長の年間総括を受け、津久井ガバナー・エレクトが新年度の熱気あふれる抱負を述べられました。

この連絡会議には、曾我年度のガバナー補佐と地区委員長の年間報告が資料として提出され、新旧地区役員間で引継ぎ・情報交換が行われました。また、地区運営の継続性を図るため、横山公一ガバナー・ノミニー(沼田RC)とガバナースタッフ予定者にも参加していただきました。大変有意義な意見交換がなされ、盛会のうちに終了いたしました。参加者総数60名でした。

* ガバナー補佐と地区委員会委員長の年間報告は、地区ホームページの曾我隆一ガバナー事務所のページに掲載されますので、ご覧ください。



青少年一年交換学生修了式 開催報告

青少年交換委員会 担当副幹事 平方 宏

6月25日(日)午前11時、桐生市民文化会館 国際会議室にて、青少年一年交換学生修了式が行われました。

川堀委員長の挨拶にはじまり、曾我ガバナーが挨拶を行いました。

続いて、ガバナーよりBrian McCann君とAustin McCune君に一年間の修了証授与が行われました。

そして、両君が通学した共愛学園高等学校と明照学園樹徳高等学校の校長先生に感謝状の贈呈をしました。

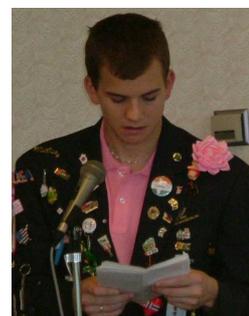
続いて、Brian McCann君、Austin McCune君より、一年間の群馬での生活、学校生活での楽しい思い出とほろ苦い経験を、すばらしい日本語で挨拶しました。

両君共とても感動的な挨拶でした。

そして、両校の先生からお言葉を頂きました。

続いて、スポンサークラブの前橋西RC田村会長と桐生南RC岩崎会長より挨拶を頂きました。

また、ホストファミリーの藤崎様、叶野様も出席され、始終なごやかな雰囲気修了式が閉会しました。



国際親善奨学生オリエンテーション報告

ロータリー財団委員会
担当地区副幹事 平方 宏

国際親善奨学生オリエンテーションが6月4日(日)群馬ロイヤルホテルにて開催された。



午前10時より、開催され、曾我ガバナーより挨拶をいただきました。

そして、1学年度奨学生田島麻美様、塩野剛様、マルチ、イヤー奨学生上野恵理子様より自己紹介がおこなわれました。

次いで、坂内光政地区幹事よりRID2840地区の概要の説明がありました。

その後、ロータリー財団についての説明が清ロータリー財団委員長よりありました。

奨学生の目的と責務を再確認しました。

昼食を挟み、午前12時45分から、高木補助金・奨学金委員長より資料に基づき、指導をしていただきました。



次いで、学友会メンバー、徳島大蔵様、笠木美希子様より体験に基づいた本当に素晴らしい貴重なアドバイスをいただきました。

その後、活発な質疑応答があり理解を深めました。

奨学生は、和やかな雰囲気の中で国際奨学生の目的、使命、義務を再認識されました。

そして、清財団委員長の閉会の言葉で無事終了いたしました。



元気に出発 G S E 日本チームドイツへ

G S E 担当副幹事 平方 宏

6月6日(火)午前9時55分、2840地区GSE派遣チーム、豊泉 清チームリーダー、宮川清吾君、原澤昌弘君、下川原敬君、横田浩美君5名のメンバーは、成田空港よりルフトハンザドイツ航空711便にて、ドイツへ無事出発しました。

この2日前の6月4日(日)群馬ロイヤルホテルにて壮行会が開催されました。曾我ガバナー、津久井ガバナーエレクト、坂内幹事、長谷川幹事、清財団委員長、小磯GSE委員長を始めとする総勢17名で行われました。

その中で、ドイツ1890地区で行うプレゼンテーションの予行演習はみごとでした。

そして、メンバー全員の力強い抱負も述べられました。一行は、ドイツ1890地区のシュターデロータリークラブを始めとする8ホストクラブにお世話になりながら、ホームステイをし、各地域で研修をしていきます。

また、1890地区大会の式典に全員参加し、2840地区のプレゼンテーションを行います。

その間、世界大会出席後の曾我ガバナーとも合流します。帰国は7月7日(金)午前7時30分の予定です。

1ヶ月間でありますが、様々な職業分野での研修を行う事によって、レベル向上とロータリー親善使節として、両地域の理解と交流を促進する事を願っています。

ガンバレ日本GSEチーム。

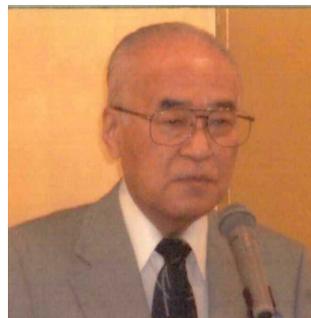


米山奨学生学友会総会開催報告

地区副幹事 矢端和之

2005 - 2006年度米山奨学生学友会総会が、平成18年6月17日(土) 前橋東急インにて開催されました。

ロータリアン6名、米山奨学生11名、学友会生10名の総勢27名の出席



を戴き12時に開会。坂内地区幹事、富田米山委員長、高木理事より激励の挨拶の後、大路学友会会長が議長となり審議を行い、2005年活動報告・収支決算、2006年度活動計画等、満場一致で承認され総会が終了致しました。



続きまして、津久井ガバナーエレクトによる乾杯で懇親会がスタート。

奨学生・学友会生全員より、3分間スピーチを戴きました。

近況報告や自分の意見など、しっかりした日本語で改めて奨学生の優秀さを感じました。

終始和やか後、次年度米山担当副幹事の岡田委員より閉会の挨拶で、無事終了致しました。



2005 - 2006年度 地区主要行事一覧表

(2006.6.30現在)

| | 開催日 | 項目 | 場所 |
|----------|--------------------|-------------------------|-------------|
| 2004年 | 12月18日(土) | 第1回ガバナー補佐会議 | 曾我GE事務所 |
| 2005年 | 1月15日(土) | 第2回ガバナー補佐会議 | 前橋テルサ |
| | 1月30日(日) | 地区諮問委員会・GE壮行会 | |
| | 2月3日(木) | ガバナー・IL外および米山委員長合同セミナー | 高輪プリンスホテル |
| | 2月5日(土) | ガバナー補佐・委員長会議 | 前橋テルサ |
| | 2月17日(金)～27日(金) | 国際協議会 | アナハイム・米国 |
| | 2月20日(日) | 第1回ロータリー-21世紀委員会 | 曾我GE事務所 |
| | 3月6日(日) | 地区チーム研修セミナー | 前橋中小企業会館 |
| | 3月12日(土) | 第2回ロータリー-21世紀委員会 | 曾我GE事務所 |
| | 3月18日(金) | 第1回広報・オンツ・マルメ・コンパニオン委員会 | 曾我GE事務所 |
| | 3月24日(木) | 第1回研究グループ交換委員会 | 曾我GE事務所 |
| | 3月27日(日) | 会長エレクト・次期幹事研修セミナー | マーキュリーホテル |
| | 4月9日(土) | 第3回ロータリー-21世紀委員会 | 前橋テルサ |
| | 4月16日(土) | 地区協議会 | ロイヤルチェスター前橋 |
| | 4月16日(土) | 第2回研究グループ交換委員会 | ロイヤルチェスター前橋 |
| | 5月14日(土) | 第3回ガバナー補佐会議 | |
| | 6月17日(日)～18日(金) | 国際研究会 | |
| | 6月19日(日)～22日(金) | 国際大会 | シカゴ・米国 |
| | 6月25日(日) | 第3回地区諮問委員会 | |
| | 6月30日(木) | 米山理事会・評議員会 | |
| | 7月3日(日) | CICO会議 | 県庁 昭和庁舎 |
| | 7月5日(火) | 世界社会奉仕・友情交換委員会 | 曾我G事務所 |
| | 7月9日(土) | ガバナー会 | 東京プリンスホテル |
| | 7月10日(日) | インターアクト合同会議 | |
| | 7月16日(土) | 会員組織強化セミナー | |
| | 7月16日(土) | 新会員セミナー | |
| | 7月17日(日) | 青少年交換学生 壮行会 | 桐生市民文化会館 |
| | 7月21日(木) | クラブ事務局研修会 | 県庁 昭和庁舎 |
| | 7月23日(土) | 第1回ガバナー諮問委員会 | |
| | 7月24日(日) | ロータリー財団地域セミナー | 高輪プリンスホテル |
| | 7月30日(土) | 第2回ガバナー補佐・委員長会議 | |
| | 8月6日(土) | インターアクト年次大会 | 前橋育英高等学校 |
| | 8月7日(日) | 地区ロータリー財団セミナー | |
| | 8月7日(日) | GSEチームメンバー選考会 | 曾我G事務所 |
| | 8月20日(土) | ロータリー財団奨学会選考会 | |
| | 8月20日(土) | GSE受入れ策定及び調整会 | 曾我G事務所 |
| | 8月27日(土) | 地区職業奉仕・社会奉仕合同セミナー | 群馬県JAビル大ホール |
| | 8月28日(日) | 新世代奉仕・ロータリー財団合同会議 | 群馬県庁 昭和庁舎 |
| | 8月30日(木) | 米山理事会・評議員会 | |
| | 9月3日(土) | 第1分区 ガバナー公式訪問合同例会 | |
| | 9月4日(日) | 第2分区A ガバナー公式訪問合同例会 | |
| 9月10日(土) | 第2分区B ガバナー公式訪問合同例会 | | |
| 9月11日(日) | 第3分区 ガバナー公式訪問合同例会 | | |
| 9月11日(日) | GETS | 高輪プリンスホテル | |
| 9月16日(金) | RID2560(新潟)地区大会 | | |
| 9月17日(土) | 第4分区A ガバナー公式訪問合同例会 | | |
| 9月18日(日) | 第4分区B ガバナー公式訪問合同例会 | | |
| 9月24日(土) | 地区大会 ゴルフコンペ | 伊香保国際カントリークラブ | |

| | 開 催 日 | 項 目 | 場 所 |
|-------|------------------|----------------------|---------------------|
| 2005年 | 10月1日(土)・2日(日) | ライラ研修会 | |
| | 10月8日(土) | 第4回ガバナー補佐会議 | |
| | 10月9日(日) | RID1890 GSEチーム来日 | |
| | 10月15日(土) | 地区大会 | マーキュリーホテル |
| | 10月22日(土) | 第6分区 ガバナー公式訪問合同例会 | |
| | 10月23日(日) | 第5分区 ガバナー公式訪問合同例会 | |
| | 11月7日(月) | RID1890 GSEチーム離日 | |
| | 11月24日(木)・25日(金) | ロータリー財団地域セミナー・GETS | |
| | 11月26日(土)・27日(日) | ゾーン研究会 | 新高輪プリンスホテル |
| | 11月28日(月) | RI会長来県・合同IM | 前橋テルサ |
| | 12月26日(月) | 第5回 ガバナー補佐会議 | 松し満(前橋市) |
| | 12月27日(火) | ガバナー指名委員会 | 曾我G事務所 |
| 2006年 | 1月28日(土) | 第2回ガバナー諮問委員会・GE壮行会 | 前橋東急イン |
| | 2月4日(土) | 米山奨学生選考会 | 前橋東急イン |
| | 2月7日(火) | 地区補助金申請選考会 | 曾我ガバナー事務所 |
| | 2月16日(木)～23日(木) | 国際協議会 | サンディエゴ |
| | 2月25日(土) | 米山奨学生歓送会 | マーキュリーホテル |
| | 3月5日(日) | インターアクト海外研修オリエンテーション | 県庁昭和庁舎11会議室 |
| | 3月11日(土) | ロータリーの友雑誌委員長セミナー | 県庁昭和庁舎35会議室 |
| | 3月16日(木)～19日(日) | インターアクト海外研修 | 台湾 |
| | 4月8日(土) | 第6回ガバナー補佐会議 | 前橋東急イン |
| | | ロータリー21世紀委員会 | 前橋東急イン |
| | 4月13日(木)～16日(日) | インターアクト海外研修生受入交流 | 前橋 他 |
| | 5月13日(土) | 茶の湯研修会 | 浅田家茶室(前橋市天川原町) |
| | 5月20日(土) | 新規米山奨学生オリエンテーション | |
| | 6月4日(日) | RID2840 GSEチーム壮行会 | |
| | 6月6日(水)～7月7日(水) | RID2840 GSEチームドイツ派遣 | |
| | 6月11日(日)～14日(水) | 国際大会 | マルメ(スウェーデン)・コペンハーゲン |
| | 6月24日(土) | 第4回ガバナー諮問委員会 | 前橋東急イン |
| | | 新旧地区役員連絡会議 | 前橋東急イン |
| | 7月7日(金) | RID2840 GSEチーム帰国 | |

国際ロータリー第2840地区 2005 - 2006年度

クラブ周年行事

| 年 | クラブ名 | 周年 | 開催日 | 開催場所 |
|------|----------|----|--------|-----------|
| 2006 | 高崎シンフォニー | 10 | 3月24日 | 高崎サンパレス |
| 2006 | 館林西 | 25 | 4月25日 | ジョイハウス |
| 2006 | 沼田中央 | 20 | 4月16日 | ホテルベラヴィータ |
| 2005 | 藤岡北 | 30 | 11月12日 | 玉村町文化センター |
| 2006 | 藤岡南 | 5 | 4月9日 | 藤岡商工会議所 |

【 曾我ガバナー クラブ例会訪問記録 】

| 分区 | クラブ | 訪問日 | 例会曜日 | 例会 開始時間 | 場 所 | 備 考 |
|--------|---------|-------|------|------------|--------------|-----------|
| 1 | 前橋東 | 2月23日 | 木 | 12:20 | ロイヤルチェスター前橋 | |
| | 前橋南 | 3月29日 | 水 | 18:30 | 前橋東急イン | 1000回記念例会 |
| 2 A | 桐生 | 1月23日 | 月 | 12:30 | 桐生倶楽部 | |
| | 桐生赤城 | 5月23日 | 火 | 12:30 | 桐生プリオパレス | |
| 2 B | 伊勢崎 | 3月15日 | 水 | 12:10 | ザ・クレインパーク | |
| | 伊勢崎中央 | 3月16日 | 木 | 12:10 | ニューいづみ | |
| 3 | 高崎セントラル | 4月11日 | 火 | 18:30 | 高崎ビューホテル | |
| 4 A | 太田 | 4月6日 | 木 | 12:30 | ロイヤルチェスター太田 | |
| | 太田南 | 4月18日 | 火 | 12:30 | 太田市民会館 | |
| | 太田中央 | 4月28日 | 金 | 12:15 | マリエール太田 | |
| 4 B | 館林 | 3月10日 | 金 | 12:10 | レストラン ジョイハウス | |
| | 大泉 | 4月5日 | 水 | 12:30 | 三洋電機群馬保護センター | |
| | 館林シニアム | 4月13日 | 木 | 12:10 | レストラン ジョイハウス | |
| 5 | 沼田中央 | 5月11日 | 木 | 12:30 | ホテル・ベラヴィータ | |
| | 水上 | 5月10日 | 水 | 12:00 | レストラン 諏訪峡 | |
| 6 | 藤岡南 | 3月31日 | 金 | 12:30 | 藤岡商工会議所 | |
| | 安中 | 5月30日 | 火 | 12:30 | 並木苑 | |
| | 富岡かぶら | 4月4日 | 火 | 12:15 | ホテルアミューズ富岡 | |

RI表彰 推薦クラブ一覧

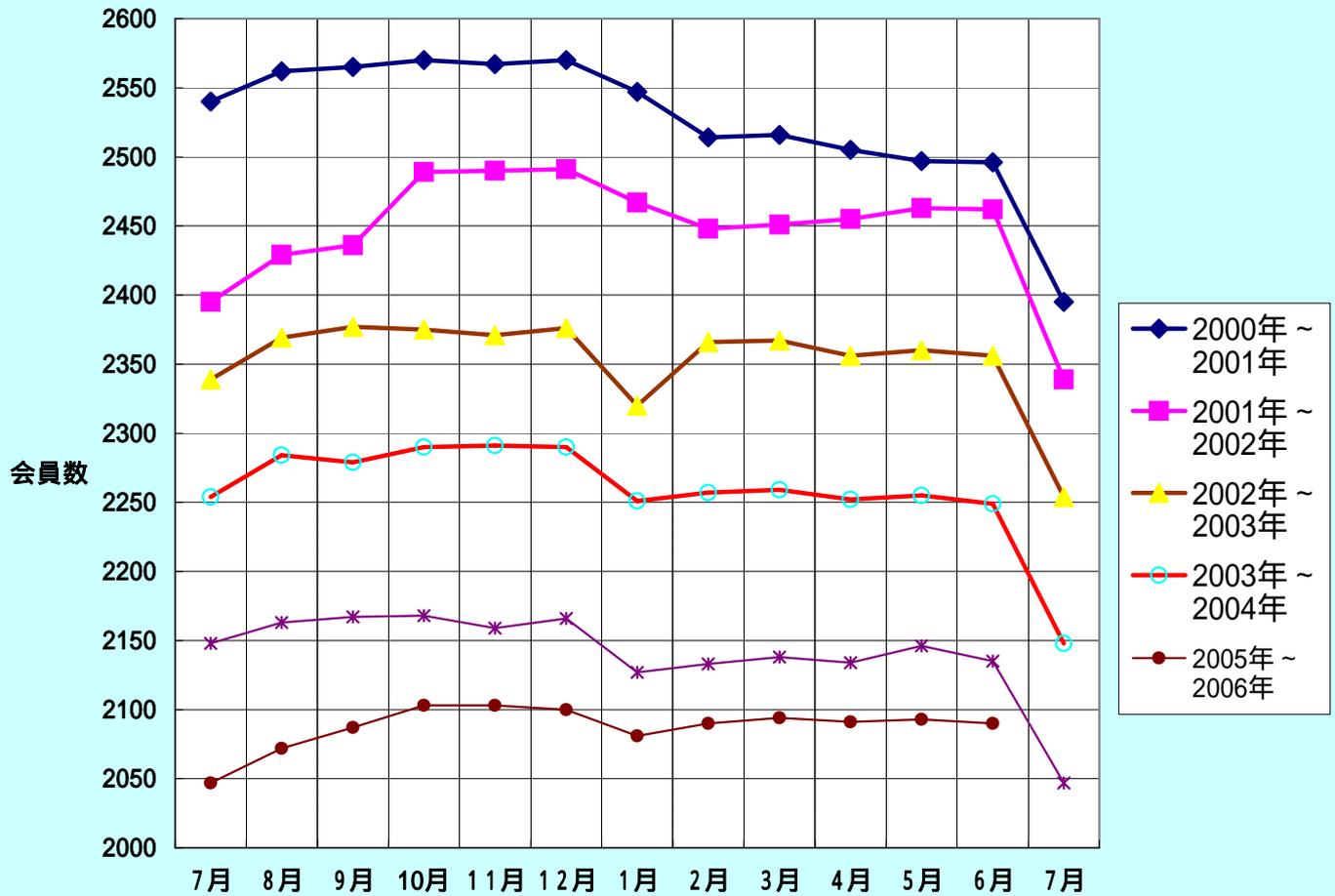
| 表彰名 | クラブ名 |
|---------|-------------|
| 意義ある業績賞 | 館林RC |
| RI広報賞 | 館林RC |
| RI会長賞 | 桐生西RC、太田南RC |

ガバナー賞推薦クラブ一覧

| クラブ名 | 推薦内容 |
|----------|---|
| 前橋西RC | チャリティーゴルフで奨学金集めを実施。 |
| 前橋東RC | 野球部同好会が二度目の甲子園出場。 |
| 桐生RC | 会員増強5名入会。総合企画委員会(21世紀委員会)設立。出席率向上プロジェクト実施。野球部復活。 |
| 伊勢崎中央RC | 毎年会員増が続いている。クラブ内の数多くの親睦クラブが活躍し、元気のよいクラブ代表であることを評価して。 |
| 高崎ソフオーRC | 創立10周年。継続的事業「群馬県児童擁護施設サッカー大会」の支援を始める。新聞などに取り上げられ、広報にも大きな力を発揮した。 |
| 太田南RC | 他クラブと比較した結果、顕著な活動が見られたため。 |
| 大泉RC | 大泉RCフカヤ杯サッカー大会及び文化交流を評価。NHKなどにも取り上げられた。 |
| 館林シニアARC | 地区内で最初にCLPを完全実施。 |
| 渋川RC | 地域社会及び青少年健全育成を目的に2事業を行ったことを評価する。 |
| 草津RC | 長期にわたり計画した奉仕事業を達成したことを評価する。 |
| 沼田中央RC | プロバスクラブの設立により、ロータリーを広く発展させた |
| 渋川みどりRC | 青少年育成・社会奉仕事業の2事業を積極的に展開。 |
| 富岡RC | 堅実なクラブ運営。休眠中だったRACを復活。初のRACOB会発足。GSEへの協力 |
| 藤岡RC | 高校生を対象に職場体験を実施。家庭集会を年150回実施。GSEメンバーの受入れ協力 |
| 富岡中央RC | フィリピン第3840地区WCS女性受刑者更正支援プロジェクト、会員増強プロジェクトで新会員6名入会、環境保全プロジェクトで河川の水質調査を定期的実施。 |
| 藤岡南RC | 5周年記念事業 藤岡市ミニ動物園に手洗い場寄贈、ふじの咲く丘に記念樹・記念碑寄贈、R財団・米山へ特別寄付、藤岡中央高校IACを新設。 |

計16クラブ

国際ロータリー第2840地区 地区会員数月別推移



地区会員数月別推移 (2000年～2006年)

| | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 00～01年 | 2540 | 2562 | 2565 | 2570 | 2567 | 2570 | 2547 | 2514 | 2516 | 2505 | 2497 | 2496 | 2395 |
| 01～02年 | 2395 | 2429 | 2436 | 2489 | 2490 | 2491 | 2467 | 2448 | 2451 | 2455 | 2463 | 2462 | 2339 |
| 02～03年 | 2339 | 2369 | 2377 | 2375 | 2371 | 2376 | 2320 | 2366 | 2367 | 2356 | 2360 | 2356 | 2254 |
| 03～04年 | 2254 | 2284 | 2279 | 2290 | 2291 | 2290 | 2251 | 2257 | 2259 | 2252 | 2255 | 2249 | 2148 |
| 04～05年 | 2148 | 2163 | 2167 | 2168 | 2159 | 2166 | 2127 | 2133 | 2138 | 2134 | 2146 | 2135 | 2047 |
| 05～06年 | 2047 | 2072 | 2087 | 2103 | 2103 | 2100 | 2081 | 2090 | 2094 | 2091 | 2093 | 2090 | |

* 各月とも、1日付会員数



ロータリーの可能性を信じて

事務局長・副幹事 本田 博己（前橋 RC）
（担当：総務・組織強化・PETS・研修・地区大会）

きっかけは、2003 - 04 年森田ガバナー年度でした。私は、たまたま地区の会員増強・退会防止委員長、そしてクラブでは職業奉仕委員長という役職を拝命し、ロータリーについての認識を深める機会をいただきました。さらに、森田ガバナーの「魅力ある 21 世紀のロータリーづくり」という提唱に呼応して創られた前橋 RC 21 世紀委員会の活動にも副委員長として参画し、クラブ改革提言を取り纏めました。この 21 世紀委員会には、曾我ガバナー・ノミネー（当時）にもオブザーバーとして議論に加わっていただき、多くの貴重な助言とロータリー情報をいただきました。

曾我ガバナーの地区運営方針は最初から明確に決まっていました。曾我ガバナー（当時はガバナー・ノミネー）の、ロータリーの魅力喪失に対する強い危機感と、前橋 RC 21 世紀委員会のクラブ改革の成果を地区運営にも生かしてゆこう、という強い思いを、私たちガバナースタッフは、迷うことなく形にすることに集中しました。

結果、前例にない企画・プログラムが多くなって、皆様のご理解が十分得られないままに進めたこともあったことをお詫び申し上げます。ただ、合同例会方式によるガバナー公式訪問後の各クラブ会長の評価等、各種アンケートの結果を見ますと、曾我年度の新しい試みに対して多くのクラブから高い評価をいただき、ほっとしています。

ロータリーが組織として危機的状況にあるとき、組織のマネジメントに習熟した企業人・経済団体の長である曾我ガバナーを得たことは、地区にとって幸いだっただけではないかと思えます。21 世紀にもロータリーが発展を続ける事ができるように、地区運営・クラブ運営の新しい方向性を曾我年度は示す事ができた、と信じています。

曾我ガバナーを支えるガバナースタッフの一員として、坂内地区幹事、横田会計長のご指導をいただきながら、副幹事の皆さんとともに地区運営の大役を果たす事ができて、大変充実感を感じています。挫けそうになったときもありましたが、バックアップしてくれたのは、ガバナースタッフの皆さんです。また事務局の小林さん、南さんの献身的なサポートがなければ、事務局長は務まりませんでした。本当にありがとうございました。

クラブ会長・幹事始めすべてのロータリアンの皆様に感謝申し上げます。



米山を中心に

副幹事 矢端 和之（前橋 RC）
（地区協・米山・社会奉仕 担当）

1. 社会福祉法人 群馬県共同募金会
社会奉仕担当として群馬県共同募金会の評議員会に3回出席しました。
05年 8月10日（水）、06年 3月23日（木）
06年 5月24日（水） 於：群馬県社会福祉センター
2. 地区大会
05年10月14日（金）地区大会に国際ロータリー会長代理として出席された、金泰麟R1会長代理ご夫妻を石田会員と共に新潟空港まで迎えに上がり、宿泊先のマーキュリーホテルまでご案内致しました。
05年10月15日（土）地区大会参加
05年10月16日（日）終日金泰麟R1会長代理ご夫妻のご案内。
・ロータリアン茶の湯会による歓迎茶の湯会 / 茶の湯会出席者と昼食会 / かみつけの里博物館見学。若狭文化財保護係長による韓国バージョンの説明。 / 森田パストガバナーご自宅表敬訪問。森田ご本家全員に歓待を受ける。 / 伊香保・福一チェックインし任務終了。
3. 韓国RC奨学文化財団訪問
06年 3月21日（火）曾我ガバナーより韓国RC奨学文化財団に寄付金を渡すという特命を受け、ソウルの文化財団を訪問致しました。
金泰麟R1会長代理の案内にて文化財団理事長 朴鍾充氏、事務局長 李載沼氏、3650地区（01 - 02）総裁 関丙峻氏と面会し曾我ガバナーの寄付金と感謝プレートの交換を行いました。曾我ガバナーの特使、また金泰麟R1会長代理の案内という事で、丁重なもてなしを受け貴重な経験を致しました。
4. 米山奨学委員会
05年 8月25日（木）米山奨学会・指定校担当職員打ち合わせ会
05年10月 1日（土）米山奨学委員長セミナー（マーキュリーホテル）
05年12月18日（日）米山学友会・クリスマス会（前橋東急イン）
06年 2月 4日（土）2006年度 米山奨学生選考会（前橋東急イン）
06年 2月25日（土）米山奨学生歓迎会（マーキュリーホテル）
06年 5月20日（土）新規米山奨学生・カンパリー・リレーション（前橋東急イン）
06年 6月17日（土）学友会総会（前橋東急イン）
7回に渡る米山奨学委員会の行事の準備・設営・進行を行いました。

富田米山委員長・高木理事を始めとしてカバナー事務所の小林さん・南さん、そして多くの方にご指導、協力を戴き無事終了出来ました事に感謝申し上げます。一年間有難うございました。



皆様ありがとうございました

副幹事 板垣 忍（前橋 RC）
（会計・21世紀・職業奉仕 担当）

ガバナーって本当に大変なんですね。「ロータリーが好き」なんて言っている程度ではとても務まるものではないようです。ポーっとしている私達(あれっ！達はいらない？失礼しました)スタッフをその気にさせなければならないし、一挙手一投足どころか息づかいにまで気を使う場面や、冷静に判断し熱く語る姿勢、メンバーが真に望んでいることを瞬時に理解し的確に応える表現力、必要と認めればすぐに出かけてゆく行動力。夫婦喧嘩の直後でもニコニコと包み込んでくれる包容力や忍耐力(えっ！私達夫婦とは違ってガバナーご夫妻は喧嘩などしません！？そうですよね。秘密ですが、僕は奥様のファンです)。

21世紀委員長の花井さんにも教えられることがたくさんありました。日本語の美しさや強さ。ユーモアはその場を救うこと。そして志向性の大切さ。委員会メンバーの吉田さん・菊池さん・萩原さん・小林さん、それぞれ素敵な輝きを持って熱心に支えていただきました。

8人のガバナー補佐の皆様、ものすごく強い個性を発揮させてオーラを出していますが、最終的にはスクラムを組む大きな人間性を持って取り組まれている姿勢にはただただ頭が下がります。

21世紀委員会のカウンセラー森田パストガバナー、どうしていつもそんなに素晴らしい笑顔を見せられるのでしょうか？単純に名家の育ちというだけではないナニカを見つけに邸宅を訪問させていただきました。そこはかたなく香るナニカという存在は確認いたしました。しかし、果たしてそれは何なのでしょう。ぜひもう一度お伺いさせていただきたいと思っています。

それにつけても、私の不甲斐なさを見るにつけ情けない限りと言わざるを得ません。本田事務局長にご迷惑ばかりかけていたと深く反省しております。本田さんごめんなさい。そして、皆様ありがとうございました。



あつという間の一年

副幹事 今井 健介（前橋 RC）
（広報・新世代奉仕・公式訪問 担当）

少数精鋭の副幹事団とおだてられながら、何もわからない状態で副幹事予定者となりました。それなりに必死に何をすべきか考えましたが、年度がスタートしてからはあつという間に1年が過ぎた観があります。担当いたしましたのは、新世代奉仕部門の「インターアクト委員会」、「ローターアクト委員会」そして「ライラ委員会」と「広報・オンツーマルメ・コペンハーゲン委員会」の4委員会です。さらにガバナー公式訪問が担当であるといわれました。ガバナースタッフの一員として、ガバナーと各委員長及び公式訪問ホストクラブとの連絡調整を図りました。

以下委員会ごとに所感を述べます。

1. インターアクト委員会

3年任期の委員会ですが、紺委員長には2年目からの委員就任であり、委員長としてご苦労されました。（これは多分に私が副幹事になったせいなのですが。）各高校のインターアクトクラブ及び提唱ロータリークラブとの連携が重要であったと思います。

台湾との交流は新潟との共同事業であり、本年度は当地区が当番でした。残念ながら訪台できませんでしたので、来日した高校生のホームステイを受け入れました。

2. ローターアクト委員会

3年任期の委員会ですので宮崎委員長は目の行き届いた指導を各ローターアクトクラブやRA地区役員にされていました。しかし地区代表が途中で交代したり、またあくまでもローターアクトの自主的な活動が基本ですので、気をもむ部分も多かったと思います。

3. ライラ委員会

3年任期の委員会で、松野委員長の満を持した構想と沼田ロータリークラブの全面的な協力で大きな成果が挙げられたと思います。2日間の研修にみっちりお付き合いし、川場村の自然や文化も楽しむことができました。

4. 広報・オンツーマルメ・コペンハーゲン委員会

鳥本委員長のお役に立てず反省しております。

5. 公式訪問

本年度の公式訪問は曾我ガバナーの提唱する地区運営改革の一環として、従来と違う形で行われました。ガバナー補佐が担当する分区毎に合同で行われ、IMの順でホストクラブに設営をお願いしました。初めての試みなので運営方法の確認に混乱もありましたが、クラブ自慢などのユニークな企画もあり、曾我ガバナーの意向は十分に反映されたと思います。 以上



ロータリーは人生哲学

副幹事 平方 宏 (前橋 RC)
(国際奉仕・財団・GSE 担当)

私は国際奉仕部門の青少年交換委員会と世界社会奉仕・友情交換委員会、ロータリー財団委員会、補助金・奨学金委員会、年次寄付・恒久寄付委員会、研究グループ交換・学友会・ポリオプラス委員会の2部門6委員会を担当いたしました。2005～06年度地区目標の、特に「RI第1890地区(ドイツ北部)との研究グループ交換を成功させよう。」「ロータリー財団への寄付目標；年次寄付22万ドル、恒久基金寄付5千ドル、一人100ドル以上」を達成する担当副幹事として活動をしてきました。しかし上記の通りGSEと財団委員会の比重が大きくなり、川堀青少年交換委員長と林世界社会奉仕友情交換委員長にご迷惑をかけてしまいました。申し訳ございませんでした。そして小林さん、南さん両事務局員のお2人に大変お世話になりました。本当に有難うございます。

1. 青少年交換委員会

夏季交換学生と一年交換学生の受け入れ。派遣学生の選考会とオリエンテーション。一年交換学生修了式と交換学生受け入れ学校への感謝状贈呈。交換学生壮行会。

2. 世界社会奉仕、友情交換委員会

8月7日の地区財団セミナーで各クラブの国際奉仕委員会にWCSの説明。群馬労働局福島局長様を講師に迎え勉強会。

3. ロータリー財団委員会

ロータリー財団セミナー(8月7日)の開催。奨学生選考会とオリエンテーション。地区補助金申請選考会。

* 申し送り事項；桐生西ロータリーの補助金申請事項は2006～2007年度予算の中で検討して頂くことをお願いしています。

清、高木、島津委員長にご指導頂き有難うございました。

4. 研究グループ交換、学友会、ポリオプラス委員会

ドイツ1890チーム受け入れ(2005年10月9日～11月7日)期間中の活動と事前の準備。日本2840チームの派遣(2006年6月6日～7月7日)の事前準備。報告書作成8月頃予定しています。

小磯委員長を始めとする委員会メンバー、受け入れ期間中の各ホストクラブのメンバーの皆様、GSEメンバー10人との素晴らしい出会いに感謝しています。

* 申し送り事項；学友会の総会を2006-2007の年度お願いします。

曾我ガバナーは2005-06の始まりにあたってガバナーメッセージで「正に良質な職業人の代表であるロータリアンが内なる矛盾(利己と利他)を克服し、他人のために尽くそうという人生哲学としての心の有り様が、この超我的奉仕のモットーです。」と述べています。今、実体験を通してふと思っています。「ロータリー、仕事と思うな人生と思え。」 1年間有難うございました。



月末は「超我の奉仕」

副幹事 福島 英人（前橋 RC）
（月信・ロータリーの友・IT 担当）

副幹事として以下の事業を担当させていただきました。

1. ガバナー月信

2005年6月20日配信の創刊0号で始まったガバナー月信ですが、毎月1日配信を目標にして、7月から翌年6月までの12回の発行に加え、終刊号を6月30日に発行いたしました。計14回の発行に際しては、当初原稿締切日の設定をお知らせし、余裕を持った紙面作成を目指していました。

しかし、最新情報をいち早くお届けしたいとの思いが強く、いつの間にか原稿締切日は私の対応可能日となって、結果として、実質的に月末3～4日の作業で原稿を作成していました。原稿を提供いただいた皆様には、満足いただける紙面であったかとの不安も残りしましたが、いかがでしたでしょうか。

編集に際して、原稿作成に多大なご指導ご協力をいただきました本田事務局局長と、仕上げおよびホームページ作成において、短時間での対応を頂きましたIT委員会の石原委員に心より感謝を申し上げます。

2. ロータリーの友

4月のロータリーの雑誌月間にあたり、3月11日に雑誌委員長セミナーを開催し、ロータリーの友への理解を深めていただきました。

当日は、各クラブから雑誌委員長他48名、および曾我ガバナー他地区役員が出席しました。ロータリーの友委員会 根本委員のご配慮によりお招きしたロータリーの友編集長、二神典子さんの講演をお聞きしました。

3. IT委員会

以下の2つの事業がありましたが、川島委員長の知識と説明力によって無事終了いたしました。

（1）CICO会議

年度が始まって間もない7月3日、群馬県庁35会議室において各クラブCICO 28名および曾我ガバナー他地区役員が出席し開催されました。出席皆様の知識と熱意に感服いたしました。

（2）クラブ事務局IT研修会

CICO会議終了から3週間も経たない7月21日に、同会議室で開催されました。今回は各クラブ事務局員35名および地区役員の出席でしたが、CICO会議より出席者が多く、事務局員さんどうしのネットワークを感じました。

振り返りますと、ガバナー月信の作成に追われていた1年間のようには思いません。時には仕事とロタリーの板ばさみを痛切に感じたこともありました。そんな時は、曾我ガバナーが月信0号の13ページで書かれた「超我の奉仕」の和訳説明を読み返しました。

ご指導いただきました皆様と、ガバナー事務所の小林さん、南さんにあらためて心より感謝申し上げます。1年間ほんとうにありがとうございました。



曾我年度を振り返って

事務局員 小林 朱里

森田ガバナー年度に引き続き、曾我ガバナー年度でも事務局員を勤めさせて頂きました。振り返ってみますとあっという間の二年間でした。

一人でガバナー事務所の仕事をこなせるかどうか不安な気持ちでスタートをきりました。大きな行事の前後や年度が始まったばかりの頃は、どんどん溜まる仕事を目の前に「見なかったことにしよう」と逃げ出したくなることもありましたが、大変な時は必ず助けてくれる人達がいました。それが、ガバナーを始めとする地区スタッフの方々でした。仕事が忙しい時でも、主要行事の前は必ず事務所に駆けつけ資料作成を手伝ってくれました。時には無理なお願いをしてしまったこともありましたが、どんな時も嫌な顔一つせずに聞いてくれ、事務局がやりやすいように対応してくださいました。

私自身が、年度が始まる直前の六月から夏の終わりまでつわりで思うように仕事が出来ず、加えて年度後期が始まる一月に出産のため出勤することが出来なくなってしまい、地区スタッフの方々に大変ご迷惑をおかけしました。本来ならば、事務局が地区スタッフの方々の支えにならなければいけないところを、事務局が地区スタッフの方々に支えられる形になってしまいました。

そして、ガバナー事務所が円滑に仕事をしていく上で、なくてはならなかったのが各ロータリークラブ事務局の皆様の協力でした。連絡などが遅れ、迷惑をかけてしまったことが多々あったかと存じますが、事務局の皆様の迅速で責任ある対応に支えられて日々の仕事が成り立っていました。電話などで相談にのって頂いたり、またつわりの時はあたたかい励ましの言葉を頂きました。

ガバナーの温厚な人柄とロータリーに対する熱意、坂内地区幹事と横田会計長の的確な指示、本田事務局長を始めとする地区副幹事の方々の優しさとおたたくさ、地区役員として地区運営にご尽力頂いたロータリアンの方々、各クラブ会長幹事様、そして各ロータリークラブ事務局の皆様のご協力。どれか一つでも欠けてしまっていたら、私は二年間勤めることが出来ませんでした。どんな時も優しい心配りをして頂き、「ありがとう」「お疲れ様」の声をかけて頂いたことに心から感謝申し上げます。

私は、ガバナー事務所で過ごした四年間で、お金では買うことの出来ない貴重な経験をさせて頂きました。たくさんのロータリアンの方々と出会うことが出来たのも、ローターアクトに入り全国に多くの仲間を持つことが出来たのも、すべてガバナー事務所に勤め、ロータリーと出会えたことがきっかけです。

今後はローターアクト活動に一生懸命取り組み、ローターアクトをロータリークラブが誇れる団体にし、当地区のローターアクトを日本で一番元気なローターアクトにしていきたいと思えます。ガバナー事務所からは離れてしましますが、アクト活動を通じてお会いできますことを心から楽しみにしています。

二年間、本当にありがとうございました。



ロータリーに携わって(曾我年度を終えて)

事務局員 南 敬子

2005年の12月末より、それまでいらっしゃった小林さんの後任として約半年間、お手伝いをさせて頂きました。当初、私に役割が務まるのかどうか不安であったということもあり、曾我ガバナー事務所に行くことに、なかなか決まらなかつた、迷っていた時間がありました。今は、その時の私に「ためらわず、迷わず進め！」と教えてあげたいくらいです。それほどまでに、この半年間は私にとって貴重で大切な時間であったと言えます。その大きな理由には、魅力的なロータリアンの皆様との出会いがあったからです。「ロータリアン」として真剣にロータリー活動を行っていらっしゃる様子は、私にとっては「人」として魅力を感じることでした。

まず、そのような皆様を通して、時として「人は人によって動かされる」ということを深く知らされる機会が多々あり、言葉を変えるならば「価値観は変わる」ということに、これ程まで気づかされたことはありませんでした。例えば、住まいがある高崎から前橋まで車で通うことは、私にとってはどちらかという、大きなことでした。しかし、ロータリーを大切に思い、動機をもって誠心誠意込めてロータリー活動に従事していらっしゃるロータリアンの方々の真剣な姿を見て、私も一生懸命お手伝いがしたい、少しでもお役に立ちたいという思いがいつの間にか心の中に生まれていました。時間をかけてでも事務所に行くことが楽しみになっていました。

また、「奉仕と報酬」の関係を認識できたことも有り難く思っています。報い、良い結果、また良い評価を求めることはごく自然なことであると思います。それにも関わらず、自分の益よりも、何らかの力を必要としている誰かのために、自分に与えられている時間、能力、環境において、その時できることをやり遂げる…やり遂げたい…と思い、活動をしていらっしゃるロータリアンの方々に刺激を受けさせていただきました。そして結果として、得ることがある、ということも学ばせていただきました。

最後に、「奉仕をすること」は「愛を示すこと」、そして「愛を示すこと」とは感情ではなく意志によるものだと教えられた、ということが私にとって大きかったと言えます。感情でしたらば、熱くなったり冷たくなったりするわけですが、一貫して「奉仕をしよう」、「愛そう」という意志をもって冷静に淡々と着実に活動に携わっていらっしゃるロータリアンの方々の姿勢をお伺いした時は、揺るがない強い正義感に似たものを感じ、頼もしくお見受けいたしました。私もその姿勢を見習いたいという思いに至りました。

この場をお借りして、これまで温かくご指導いただいた皆様に心から御礼を申し上げます。私のような未熟な者に対しまして、いつも寛容に、またご親切に接して下さり、誠にありがとうございました。皆様の一つ一つの心温まるお言葉、優しい笑顔は一生、心に残ると思います。国際ロータリー、そして第2840地区の益々のご盛栄とお一人お一人のご健勝を衷心よりお祈りしております。ありがとうございました。

地区ホームページに、曾我年度の各種資料が満載されています。

地区ホームページの曾我隆一ガバナー事務所のページには、クラブ運営の参考資料を整理・分類して掲載しています。クラブの年次総括、次年度リーダーへの引継ぎ、クラブの長期計画策定等にご活用いただければ幸いです。

<http://www.rid2840.jp/soga/index.html>



国際ロータリー第2840地区
2005-2006年度

曾我 隆一ガバナー事務所

◀ 2840地区TOP

ガバナーメッセージ ガバナー月信 2840地区概要 地区大会報告 セミナー報告 [クラブ組織強化支援ツール](#)

「ガバナーメッセージ」のコーナーには、毎月の月信掲載メッセージ以外の曾我ガバナーのメッセージを掲載しています。

「セミナー報告」のコーナーには、曾我年度の各種セミナーにおける重要レポートが満載です。合同IMにおけるステンハマーRI会長の基調講演や、ゾーン研究会における、曾我ガバナーのプレゼン「クラブ強化と地区改革」など。

ガバナーメッセージ ガバナー月信 2840地区概要 地区大会報告 **セミナー報告** [クラブ組織強化支援ツール](#)

セミナー報告

| セミナー名 | 実施日 | ファイル名 |
|-------------|---------|------------------------------------|
| | | 1.事例発表 館林ミレニアムRC |
| | | 2.事例発表 藤岡RC |
| | | 3.事例発表 高崎南RC |
| | | 4.事例発表 高崎南RCプレゼン資料 |
| | | 5.情報交換会 第1分区 |
| | | 6.前橋RCにおける会員満足向上活動 |
| 21世紀委員長連絡会議 | H18.4.8 | 7.情報交換会 第2分区Aグループ |
| | | 8.情報交換会 第2分区Bグループ |
| | | 9.情報交換会 第3分区 |
| | | 10.高崎RC21世紀委員会の活動報告 |
| | | 11.情報交換会 第4分区Aグループ |
| | | 12.情報交換会 第4分区Bグループ |
| | | 13.情報交換会 第5分区 |
| | | 14.情報交換会 第6分区 |

「クラブ組織強化支援ツール」のコーナーには、会員満足度アンケートのフォーマットやCLPに関する資料をまとめています。

支援ツール ※ワード形式はダウンロード後に編集が可能です。

[クラブ組織強化の手引き](#)

[会員満足度アンケート\(地区版2005\)](#)

[「会員満足度アンケート」実施の手引き](#)

[クラブ活カテスト\(2005～2006年度版\)](#)

[『クラブ活カテスト』活用の手引き](#)

[クラブ活カテスト 評点集計表](#)

[理想的ロータリークラブの条件案\(R2クラブ強化推進委員会2005.5\)](#)

[「クラブ・リーダーシップ・プラン」について](#)

[推奨ロータリークラブ細則\(DLPIに基づく\)](#)

[地区リーダーシップ・プランとクラブ・リーダーシップ・プラン\(PPT配布資料\)](#)

[クラブ・リーダーシップ・プラン\(ノート\)](#)

⋮



地区三役(ガバナー・地区幹事・会計長)の年度総括は、本号冒頭に掲載されていますが、ガバナー補佐・地区委員会の年間活動報告を、このホームページ上に掲載いたします。

創刊ゼロ号(2005年6月20日発行)に始まり、05年7月から06年6月まで毎月1日定期発行を行い、本号(06年6月30日発行)をもちまして曾我ガバナー年度の月信の終刊となります。

1年間のご愛読まことにありがとうございました。

< 寄稿 >

サービスの哲学としてのロータリー理念



2005 - 06 年 地区副幹事・事務局長
前橋ロータリークラブ 本田 博己

はじめに

2005 - 06 年国際ロータリーのカール・W・ステンハマー会長は年度テーマに、ロータリアンが長く親しんできた標語「超我の奉仕」“Service Above Self”を選びました。ステンハマー会長は、この標語ほど「的確にロータリーとロータリアンの精神を言い表している言葉は」なく、「ロータリアンを鼓舞する最も意義深い言葉」であるとしています。

そして、「来たる年度、すべてのロータリアンに『超我の奉仕』の真の意味をじっくりと考えていただく機会が与えられます。そして、この思いやりと寛容の精神に満ちた普遍的メッセージに、新たな思いを抱かれることになると思います。」と語っています。

ただ、RI の公式文献の中で“Service Above Self”という言葉の意味をきちんと解説している箇所は、寡聞にして知りません。ステンハマーさんも「最も意義深い言葉」とは言うものの、注意深く(?)その意義の解説は避けているようです。それとも、この言葉の意味は、自明なのでしょうか。

私は、この一年、2840地区のガバナースタッフの一員として、最新のロータリー情報や研究成果に触れ、また、多くの研究熱心なロータリアンの皆様との意見交換を通じて、この言葉に確かに「新たな思いを抱くようになりました。この百年、多くの先人の実践によって鍛えられてきたロータリーの理念を正しく理解するためには、ロータリーの標語の真意をその由来にまでさかのぼって明らかにする必要があると考えました。

ロータリーの二つの標語をめぐって

ステンハマー会長は、その年度テーマ説明では一切言及していませんが、ロータリーには、二つの標語があります。二つの標語の位置づけは、手元にある最新の『ロータリー章典』(Rotary Code of Policies : June.2006)では以下のように記されています。

33.060 Rotary Mottos

Service Above Self and They Profit Most Who Serve Best are the official Rotary Mottos. Service Above Self is the principal motto of Rotary.

(June2005 Mtg., Bd. Dec. 271)

Source: COL50-11, COL51-9, COL89-145, COL01-678, COL04-271

日本語訳すれば、次のようになるでしょうか。

ロータリーの標語 「超我の奉仕」と「最もよく奉仕する者最も多く報いられる」とがロータリーの公式標語である。「超我の奉仕」がロータリーの第一標語である (2005 年 6 月 理事会決議 271)

末尾の Source は、この項目の記述の典拠を示しています。(例えば、COL50-11 は 1950 年の規定審議会での決議番号 11 に関する内容であることを示す)

この文中の “ They Profit Most Who Serve Best ” という標語の原形は、“ He Profits Most Who Serves Best ” でした。この言葉は、ロータリーの奉仕概念を確立したアーサー・F・シェルドンが提唱したもので、1911年第2回全米ロータリー連合会のポートランド大会で『ロータリー宣言』案の結語として採用されたことが記録に残っています。

一方 “ Service Above Self ” については、誰がいつ作ったか不明です。一説によると、ミネアポリス・ロータリークラブの会長ベンジャミン・F・コリンズが、1911年の同大会でシェルドンの言葉に呼応して提言した “ Service, Not Self ” という言葉が、“ Not Self ” の解釈をめぐる議論の末に “ Service Above Self ” と修正され、以後 “ He Profits Most Who Serves Best ” とともにロータリアンが様々な機会に使用する標語として親しまれるようになっていったということです。(ステンハマー会長が年度テーマ説明の中で「1911年、ロータリアンは『超我の奉仕』という標語を熱意をもって採択しました。」と語っているのは、不正確。)

この2つの言葉は、1950年デトロイト国際大会でロータリーの公式標語として採用され、1989年のシンガポール規定審議会では “ Service Above Self ” (「超我の奉仕」) が第一標語に、“ He Profits Most Who Serves Best ” (「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」) が第二標語に指定され、今日に至っています。

第二標語のその後の不幸な運命については、本稿では触れませんが、ロータリー理念を端的に表現している二つの標語の「真の意味」を、残念ながら現代のロータリアンはあまり深く顧みなくなっている(世界的な傾向として)のは確かでしょう。

決議 23 - 34

この二つの標語は、1923年の国際大会における『決議 23 - 34』の冒頭にロータリーの理念を説明する言葉として並んで出てきます。この1923年の決議は、「職業奉仕」の理念を重視する理念派と、「社会奉仕」の実践を中

心に考える実践派との間に激しい論争が交わされた後、その調和を図り、ロータリーの奉仕に対する考え方を交通整理してまとめられたもので、以後今日まで、ロータリー理念の核心を示した文献として大切にされています。

『決議 23 - 34』は、現在の『手続要覧』では第 6 章「社会奉仕」の中に「社会奉仕に関する 1923 年の声明」として記載されていますが、いわゆる「四大奉仕部門」が成立する（1927 年）以前の文献でもあり、ロータリーの「奉仕」（一般奉仕概念）についての基本方針が表明されていると考えたほうが正しいと思われます。

その第 1 条に二つの標語が出てきます。原文は次の通りです。

Fundamentally, Rotary is a philosophy of life that undertakes to reconcile the ever present conflict between the desire to profit for one's self and the duty and consequent impulse to serve others. This philosophy is the philosophy of service - "Service above self" - and is based on the practical ethical principle that "He profits most who serves best"

(Rotary Code of Policies:8.070 June2006)

日本語訳は、次の通りです。

ロ - タリ - は、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕 - 「超我の奉仕」 - の哲学であり、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践倫理の原理に基づくものである。

ここでは、ロータリーは一つの人生哲学（人生の拠りどころとなる原理原則）であると高らかに宣言され、その哲学が二つの標語で端的に表明されています。ロータリーの考える「奉仕」（Service）とは、「超我の奉仕」であり、それは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的・倫理的原理に基づいている、というのです。

この『決議 23 - 34』では、ロータリーの理念を二つの標語を並べて説明している点に注目したいと思います。二つの標語の間に、後年の第一標語・第二標語のような序列はなく、またどちらか一方だけでは説明は完結しないのです。

実は、上記引用の第二標語の部分（アンダーラインで示した）は、現在の『手続要覧』ではカットされています。（最新の『ロータリー章典』には全文が載っている）先ほど触れた第二標語の「不幸な運命」の表れですが、本稿では触れません。

シェルドンの「ロータリー哲学」

ロータリーの哲学者といわれロータリーの奉仕理念を確立したアーサー・フ

レデリック・シェルドンに関しては、近年2680地区の田中 毅パストガバナーのご努力で、その業績の全貌が紹介されています。

『決議23-34』が声明として発表された2年前の1921年、スコットランドのエジンバラで開催された国際大会でシェルドンがスピーチして聴衆に深い感銘を与えた『ロータリー哲学』と題する論文の中に、二つの標語が、ロータリーの奉仕哲学の真髓を語る時に大変印象的に使われています。

スピーチの中で、二つの標語に言及した箇所を見てみましょう。

「ロータリー哲学は奉仕哲学です。当然のことながら、『超我の奉仕 最も良く奉仕するもの、最も多く報いられる』というモットーの源泉から流れでています。」(田中 毅 PG 訳：以下同じ)

人間に備わる能力は、神が、人間を奉仕をするために地上に遣わせたことを示している、として、「...この事実が、商工業を利己主義の卑しいランクから引き上げて、ロータリアンが心から『超我の奉仕』を宣言することを可能にし、ロータリアンが『最も奉仕する者、最も報いられる』と高らかに宣言することを可能にしているのです。」

「ロータリーのモットーにある(1)「奉仕」(Service)、(2)「利己」(Self)、(3)「利益」(Profit)という三つの重要概念の本質を調査する...」

「利他主義(他人への奉仕)が、エゴイズムに先行すること、すなわち、『自己』に先立って『奉仕』があること.....極めて実用的な『超我の奉仕 最もよく奉仕する者、最も多く報いられる』というモットーで言い表されるような、ロータリー哲学を作り出したのです。」

以上の引用に共通するのは、二つの標語が一体化されて使われていることです。引用した箇所の原文の motto はすべて単数形で、そのモットーは“Service Above Self He Profits Most Who Serves Best”と、二つの言葉が融合された形で示されています。

そして、ロータリーの奉仕概念の真髓を、この「一つの標語」の中の“Service” “Self” “Profit”という3つの概念の本質とそれらの関係を説明することによって浮き彫りにしようとしているのです。

シェルドンの『ロータリー哲学』の2年後の『決議23-34』では、まだ標語は一体化して示されていたと考えてよいと思いますが、後年、分断化された形で公式標語に採用され、さらに第一・第二と序列を付けられ、真意を顧みられることもなく、特に第二標語は、日本はさておき、世界のロータリアンからはほとんど忘れられた存在となっていたのでした。

ロータリーの奉仕理念の真意を理解するには、“Service Above Self”を唱えるだけでは不十分であることが、このシェルドンの論文に明確に示されていたといえるでしょう。

「奉仕の理想」と「四大奉仕」

ロータリーの二つの標語が、『決議 23 - 34』からシェルドンの『ロータリー哲学』まで遡ってゆくと、融合した「一つの標語」として示されていること、そして、この「一つの標語」がロータリー理念の核心である“the Ideal of Service”の内容を説明していることが、はっきりしたと思います。

ところで、この“the Ideal of Service”は、従来「奉仕の理想」と訳されてきました。ロータリーの「綱領」には、ロータリーの目的は「有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成」すること、とあります。この「奉仕の理想」というのが何となく崇高な感じはしますが、わかったようでよくわからない。“Object”を「綱領」と訳すのもそうですが、“Service”を「奉仕」、「Ideal」を「理想」と訳したため原意が伝わりにくくなっているように思います。

原意は、「サービスについての基本的概念」とか、「サービス理念」ということでしょう。シェルドンが「ロータリーの哲学はサービスの哲学である」と定義づけたことに敬意を表して、本稿では“the Ideal of Service”を「サービスの哲学」と訳しておきます。

ロータリー用語の日本語訳には、必ずしも原意を正確に伝えていないものが散見されます。上で示したように「奉仕」も本稿では以後「サービス」と原語で示します。（ロータリー標語の公式訳の問題については後述します）

「四大奉仕」もそうした問題訳語のひとつだと考えます。「四大奉仕」の原語は、“Four Avenues of Service”です。この“Avenue”は、「(目的へ)近づく道、手段、方法」といった意味で、もともと、拡大し活動も複雑になってきたロータリーの組織管理の合理化の手段として考えられたものです。1927年ベルギーのオステンド大会で採択され、以後現在にいたる「四大奉仕」に基づく委員会構成が確立したのです。

現在、クラブ・リーダーシップ・プラン（CLP）の推奨する機能別分類による委員会構成と、この「四大奉仕」との整合性が議論的となっていますが、上記のように「四大奉仕」は、いわば“80年前のCLP”であったことを考えれば、「四大奉仕」を金科玉条としてそれにこだわることもないのではないのでしょうか。むしろ、ロータリーの目的を実現するための手段のひとつであったのに、「四大奉仕部門」という平板な枠組みにロータリーの活動をすべて硬直的に押し込めてしまったことによる弊害のほうを考えるべきでしょう。

サービスの哲学というロータリーの素晴らしい理念の学習と実践をどのように実現してゆくか、ということに意を向けたいものです。「入りて学び、出でて奉仕せよ」という金言をもう1度想起すべきでしょう。

小倉昌男さんのサービス哲学

ステンハマーさんの「問題提起」に触発され、ロータリー標語の真意について考えをめぐらせていた頃、銀座新ロータリークラブ会員であった小倉昌男さんが亡くなりました。(まさにロータリー百周年の年度が終わる2005年6月30日でした)

小倉昌男さんといえば、ご説明するまでもなく、ヤマト運輸の元会長で、宅急便クロネコヤマトを創造された方です。百貨店の下請けから社業の転換をはかり、社員全員の反対を押し切って小口輸送の宅急便を開発したのです。

宅急便を始めた最初の1ヶ月の取り扱い個数は、わずか8500個だったそうですが、現在は月間8860万個を取り扱い、国民の生活に欠かせない仕組みになっています。

小倉さんはヤマト運輸の経営を退かれた後も、ヤマト福祉財団理事長として障害者の自立と社会参加を支援することに情熱を注がれていました。

その小倉さんの有名な言葉が「サービスが先、利益は後」です。クロネコヤマトのサービスは「ダントツのサービス」でなければならない、と小倉さんは言います。「ダントツのサービス」とは、お客様に100%の満足を与えること。具体的には、約束した日の配達を必ず守り、お客様を絶対裏切らないこと、です。利益はダントツサービスの結果なのです。ですから「サービスが先、利益は後」というわけです。ヤマトの絶対目標は、「お客様の立場に立って考える良いサービスの実行」でした。

小倉さんの「サービスが先、利益は後」という言葉は、1921年にシェルドンが「一つの標語」で示したロータリーのサービス哲学を大変うまく表現しているように思います。

“Service above Self”の公式訳は「超我の奉仕」ですが、かつて、日本のロータリーの創始者のひとり米山梅吉翁は、これを「サービス第一、自己第二」と訳しました。「自己」の上位に「サービス」がある。サービスが順序としては先だよ、というニュアンスです。米山翁の訳の方が原語の意味をうまく表現しているようです。

もう一つの“ He profits most who serves best ”は「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」と訳されていますが、これも「ベストなサービスをすれば、結果として最大の利益を得る。」ということでしょう。

シェルドンが強調したように、ロータリーのサービス哲学は、「サービス」と「自己」の関係、そして「サービス」と「利益」の関係によって示されます。小倉昌男さんはロータリーのサービス哲学を深く理解し実践した真のロータリアンであったと思います。

実践なき理念は空虚

本稿では、ロータリーにおける「サービス」(奉仕)の意義そのものについては解説しませんでした。田中 毅氏の多くのシェルドン解説によって明らかになったように、ロータリーの「サービス」は現代の経営にも適用できる、普遍的な概念です。そのことは小倉昌男さんの例を見てもよくわかります。「サービス」とは、私たちが社会に対して提供できる有益な価値に他なりません。現代日本では、サービスという言葉、値引きやおまけという軽い意味で使うことが多いので、一言付け加えておきます。

会社の目的は利益追求か、それとも社会的責任を果たし社会に貢献することか、という議論があります。しかし、利益追求か社会貢献かという2項対立は、底の浅い議論です。ロータリーの「サービス哲学」の実践は、この2項対立を見事に止揚し、高い次元で企業家自身とその組織の社会的価値を高めます。ロータリーの「サービス哲学」は、実践を要求します。そして、実践によって理念は一層鍛えられます。

「ロータリーはI serve だから」と言って、「サービス」の実践を厭う人がいます。自分の怠惰を自己正当化しているだけの人でしょう。

私も、頭でっかちな議論はほどほどにして、実践の大海へ漕ぎ出すときがきたようです。ロータリーの「サービス哲学」の実践が、より実り豊かな人生をもたらすことを信じて。

おわりに

本稿の内容についての責任はもちろん筆者の私にありますが、本稿の知見はRI2680 地区の田中 毅パストガバナーの翻訳および田中氏のホームページ『ロータリーの源流』所収の『炉辺談話』、RI2840 地区曾我隆一ガバナーの月信のガバナーメッセージに多くを拠っています。また、曾我隆一ガバナー、地区21世紀委員会委員長 花井博将氏(前橋西RC)、地区広報委員長で前橋RCの21世紀委員会委員長 鳥本安彦氏はじめ多くのRI2840 地区ロータリアンの皆様との対話から得られた知見でもあります。あらためて、蒙を啓いていただいた皆様に謝意を表します。

【参考資料】

- ・『詳説 アーサーF.シェルドン』
- ・『職業奉仕・理論と実践の徹底的分析』などのロータリー研修資料
- ・ホームページ『ロータリーの源流』(以上、RID2680 田中 毅 PG)

- ・『「超我の奉仕」について』(RID2840 ガバナー月信 Vol. 0 : 2005. 6)
- ・『ロータリー 超我の奉仕をめぐる』(RID2840 ガバナー月信 Vol. 3 : 2005. 9)
(以上、RID2840 2005-06年 曾我 隆一ガバナー)